

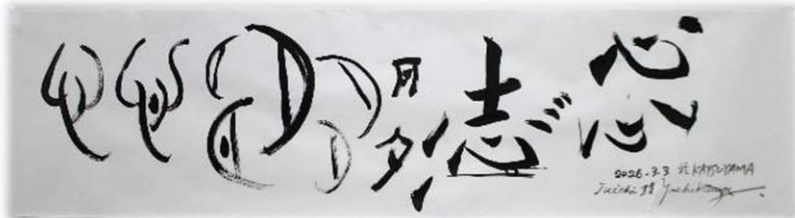
2025～26年度 RI第2650地区

創立 昭和36年6月28日  
承認 昭和36年8月 3日

勝山ロータリークラブ週報

例会日 毎週火曜日 12:30～13:30  
例会場 勝山市市民交流センター  
〒911-0811 福井県勝山市片瀬町1丁目402番地  
TEL 0779-87-7761 FAX 0779-87-7760  
URL : <https://rid2650.gr.jp/club-katsuyama>  
Email:katsuyamarc@gmail.com

■会長 滝川 博則 ■幹事 辻 利津子  
編集発行・文責 公共イメージ委員会



会長メッセージ ～ 縁（えにし）を継なく ～

第3117回 例会 (3月17日)

●会長スピーチ

パスト会長 山内 政司



本日は、本来登壇予定であった斎藤氏が欠席のため、私がお話をさせていただきます。

私自身、現在は現役を退いておりますが、地区や農協（JA）の役員としての職務が重なり、多忙な日々を過ごしております。

今日も夕刻より役員会を控えており、明日以降も総会や会議が立て続けに予定されています。

このような状況は皆様も同様かと思えます。3月から4月にかけては、卒業や就職、転勤といった人生の節目に加え、仕事面でも年度末の締めくりや新年度の準備が重なり、非常に慌ただしい時期でございます。

最近、例会の欠席者が増えているのも、こうした季節柄の影響ではないかと拝察いたします。

目を外に転じますと、昨今のガソリン価格の高騰をはじめ、生活に直結する課題が山積しております。

また、政治面では、高市氏が近日中に訪米を予定されているとの報道もあり、日本のリーダーシップを担う方々の重責は察するに余りあります。

本日はゲストとして、株式会社パシオンの前田様にお越しいただいております。

葬儀のあり方は、新型コロナウイルス感染症の流行を境に大きな転換期を迎え、その形態や価値観も変化してまいりました。本日は前田様より、業界の最新動向や「今を生きること」への想いなど、貴重なお話を伺えることを楽しみにしております。

●幹事報告

幹事 辻 利津子

○例会終了後理事役員会を開催します。  
○昨日、福井あじさいRC25周年の式典に会長と出席してまいりましたのでご報告いたします。

◆到着物

○青少年ふくい 青少年育成福井県民会議

●出席報告

山内 智子

3月17日 欠席6名 70%  
3月10日 欠席5名 75%

●ニコニコ報告

笠松 誠一

届出欠席 福田浩司



1月誕生 山本泰司会員



会員のコーナー 斎藤 清一郎会員

勝山左義長祭りに安治川親方が参加



2月21、22日に開催された伝統行事「勝山左義長祭り」に、安治川親方御夫妻が来場し、会場は大いに盛り上がりました。

祭りでは12基の櫓が立ち並び、太鼓の音が街に響き渡る中、安治川親方が櫓の上に登場。力強く太鼓を打ち鳴らす姿に、集まった観客から大きな歓声と拍手が送られました。相撲で鍛えた迫力ある所作と天性のリズム感で、祭りの熱気をさらに高めていました。

夜に開かれた懇親会では、地元の人々と気さくに交流。杯を交わしながら会話を楽しみ、笑顔の絶えない和やかな時間となりました。

参加者からは「親方が来てくれて本当にうれしい」「一緒に飲んで話せて思い出になった」といった声も聞かれ、会場は終始賑やかな雰囲気になっていました。

ご存知のように安治川部屋は大関の安青錦の部屋で、今年中には横綱への昇進が確実視されています。

当然、これから多くの後援者（タニマチ）を求めての来勝です。勝山ロータリークラブからの後援会への加入も、期待されていると思います。希望される方は当クラブの、大相撲観戦クラブまで申し込みをお願い致します。

本日 プログラム	ゲスト卓話 日本生命福井支社 山崎 研児 氏	4月5日 プログラム	地区大会	4月7日	4月5日 振替休会	4月14日 プログラム	会員卓話 辻・斎藤会員
-------------	------------------------------	---------------	------	------	--------------	----------------	----------------

## ゲスト卓話

## 今を生きることの大切さ

(株)パシオン 代表取締役 前田 千聡 氏

**起業への想いと「パシオン」の由来**

私は1990年生まれの35歳で、現在は二人の男児を育てる母親でもあります。

以前は医療事務に従事しておりましたが、28歳で「株式会社パシオン」を設立いたしました。

社名の「パシオン」は、スペイン語で「情熱」を意味します。何事にも情熱を持って取り組みたいという決意を込めて名付けました。

起業の原点は、21歳の時に14歳のいとこを亡くした経験にあります。この悲しみを通じ、従来の形式にとらわれない「葬儀のあり方」を深く考えるようになったことが、私の活動の軸となっています。

**葬儀を通じたトータルサポートの提供**

弊社では「おうちのような温かい空間」をコンセプトに、1日1組限定の葬儀をサポートしております。

単にお見送りをお手伝いするだけでなく、ご遺族が直面する以下のような事後課題についても、専門家と連携しながら包括的に支援しています。

**供養の相談：**

お仏壇の買い替えや、核家族化に伴うお墓の管理・墓じまいのご相談。

**事務・手続き支援：**

香典返しの手配や、複雑な相続関係における専門家への橋渡し。

**生前準備の啓発：**

遺影写真がないという事態を防ぐため、感謝祭などのイベントを通じてプロによる写真撮影会を実施しています。

特に遺影については、お孫さんと写っているような、その方らしい自然で良い表情の写真を残しておくことをお勧めしています。

**困難を乗り越えた先に見た「命の重み」**

起業当初は、若さや子育てとの両立に対して周囲から厳しい声や反対を受け、精神的に深く落ち込む時期もありました。

しかし、家族の支えと「守るべきものがある」という信念でそれらを乗り越え、2021年には完全な独立を果たしました。

現在は夫も公務員から転職して経営に参画し、家族一丸となって会社を支える体制を整えております。

また、自身の経験を次世代に伝えるべく、小学校での「いのちのおはなし会（親子道徳）」などの講演活動にも力を入れています。

**私たちが支える「命のリレー」**

皆様は、ご自身のご先祖様が何人いらっしゃるか考えたことはありますか。

家系を10代遡ると、その累計は2,046人にのぼります。この膨大な数の先祖のうち、たった一人が欠けても今の自分は存在しません。私たちは、気の遠くなるような長い年月をかけた「命のリレー」の果てに、今ここに生かされているのです。

**「後悔」を「ありがとう」に変えるために**

葬儀の現場でご遺族から最も多く聞かれる言葉は、「もっと優しくすればよかった」「もっと話を聴いて、感謝を伝えておけばよかった」という切実な後悔の声です。

人の死は、ある日突然訪れることがあります。もし今日が人生最後の日だとしたら、皆様は誰に、どのような言葉を届けたいでしょうか。

「何かをしてくれたから」という条件付きの感謝ではなく、ただ「そこにいてくれること」「生きていてくれること」そのものに対して、今、言葉を尽くしていただきたいのです。

今、この瞬間を生きる人生の最後に残るものは、お金や名誉ではなく「人との関わり」や「共に作った思い出」、そして「誰かのためにしたこと」であると私は信じています。私たちの命は有限であり、明日が必ず来るとは限りません。

本日皆様に記入していただいた付箋のメッセージは、ぜひ照れずに、大切な方へ直接届けてみてください。

今日伝えられる言葉を今日届けること。それが、皆様の人生をより豊かにする第一歩になると確信しております。

本日は貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。